

介護職員養成研修課程カリキュラム表 (介護職員初任者研修課程)

科(科目)名	内 容	実施計画	科目番号
(1)職務の理解 (6時間)	①多様なサービスの理解	介護保険サービスや介護保険外サービスについて講義。	(1)-①
	②介護職の仕事内容や働く現場の理解	多様なサービスと介護職の仕事内容、その役割をグループワークにて図式化し介護サービスを体系的に理解する。介護職の資格体系を見直し、キャリアパスを学ぶ。	(1)-②
(2)介護における尊厳の保持・自立支援 (9時間)	①人権と尊厳を支える介護	「基本的人権」「個人の尊厳」の基本理念の講義。アドボカシー・エンパワメントを、事例を題材にグループワークにて検討・発表し理解を深める。	(2)-①
	②自立に向けた介護	専門職として「自律」と「自立」を理解。自立支援のための介護方法と介護予防の意義を学ぶ。	(2)-②
(3)介護の基本 (6時間)	①介護職の役割、専門性と多職種との連携	利用者を設定し、介護関連図を作り、介護に関わる専門職、他職種との連携、チームケアについて理解する。	(3)-①
	②介護職の職業倫理	法令遵守、利用者の尊厳と自己決定、及び専門職としての社会的責任と姿勢を理解する。	(3)-②
	③介護における安全の確保とリスクマネジメント	事故予防、安全対策、感染予防など介護における安全確保を、具体的事例を用いてグループワークにて検討・発表し、理解を深める。	(3)-③
	④介護職の安全	介護職の健康管理の重要性を理解。介護職に起こりやすい健康障害、腰痛、感染症等の予防を学ぶ。	(3)-④
(4)介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9時間)	①介護保険制度	介護保険の申請から利用までのフローチャートを作成し、ポイントをおさえる。契約やケアプラン、個別援助契約書等の位置づけを理解する。	(4)-①
	②医療との連携とリハビリテーション	障害者福祉の背景と動向を学び、制度の理念・概要と目的を理解し、成年後見制度等個人の権利を守る制度も学ぶ。	(4)-②
	③障害者福祉制度およびその他制度	服薬・健康チェック・ストーマ・経管栄養等の高齢者医療及びリハビリテーションの意義・種類、経過等を理解する。	(4)-③
(5)介護におけるコミュニケーション技術 (6時間)	①介護におけるコミュニケーション	言語的、非言語的コミュニケーションを学び、役割演技にて体験し、失語、聴覚、視覚障害者や認知症に応じた対応方法を習得する。	(5)-①
	②介護におけるチームのコミュニケーション	チームケアにおける報告・連絡・相談・記録(情報の共有)を役割演技にて体験し、重要性と方法を理解する。	(5)-②

(6) 老化の理解 (6時間)	①老化に伴うこころとからだの変化と日常生活	老齢期の発達と心身の変化の特徴、心身機能の変化と日常生活への影響を理解する。	(6)－①
	②高齢者と健康	高齢者の疾病の症状や訴え、生活上の留意点等をグループワークにて整理し理解を深める。	(6)－②
(7) 認知症の理解 (6時間)	①認知症を取り巻く状況	認知症ケアの理念を理解し、認知症の人に生じやすい身体的不調と健康管理を学ぶ。	(7)－①
	②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	認知症の概念と原因疾患・病態の理解。	(7)－②
	③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	認知症によって引き起こされる様々な生活障害、心理・行動の特徴を理解する。	(7)－③
	④家族への支援	家族への支援の講義を行い、事例ごとにグループで検討・発表し、家族のストレスやレスパイトケア等の理解を深める。	(7)－④
(8) 障害の理解 (3時間)	①障害の基礎的理解	障害者福祉の基本理念、国際生活機能分類を学び、障害と障害者を正しく認識する。	(8)－①
	②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	身体・知的・発達・内部等の障害をそれぞれ医学的側面から学び、障害と障害者を理解する。	(8)－②
	③家族の心理、かかわり支援の理解	事例を用いてロールプレイを行い、家族の心理を理解し、関わり支援を学ぶ。	(8)－③
(9) こころとからだのしくみと生活支援技術 (75時間)	【ア 基本知識の学習 (10～13時間)】		
	①介護の基本的な考え方	理論に基づいた介護・法的根拠に基づいた介護を理解。	(9)－①
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	老化、障害を受け入れる過程での感情、生きる意欲の形成、阻害要因をテーマに討議を行い理解を深める。	(9)－②
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	健康チェック・バイタルサインのとり方を学び、骨・関節・筋肉・自律神経と内部器官を理解する。	(9)－③
	【イ 生活支援技術の講義・演習 (50～55時間)】		
	④生活と家事	生活の捉え方、衣食住の環境整備等、生活と家事について理解する。	(9)－④
	⑤快適な居住環境整備と介護	「人と住まい」を理解し、高齢者・障害者にとっての住まいの性能について学び、介護保険による住宅改修及び福祉用具を学ぶ。	(9)－⑤
⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	更衣、整容の介助方法の基本を学び、利用者の自立に向けた更衣、整容の介護技術演習を行う。	(9)－⑥	

	⑦移動・移乗に関連した こころとからだのしくみ と自立に向けた介護	移動・移乗の介助方法の基本を学び、利用者の自立に向けた移動・移乗の介護技術演習を行う。	(9)－⑦
	⑧食事に関連したこころ とからだのしくみと自立 に向けた介護	食事の介助方法の基本を学び、利用者の自立に向けた移動・移乗の介護技術演習を行う。	(9)－⑧
	⑨入浴、清潔保持に関連 したこころとからだのしく みと自立に向けた介護	入浴・清潔保持の介助方法の基本を学び、利用者の自立に向けた介護技術演習を行う。	(9)－⑨
	⑩排泄に関連したこころ とからだのしくみと自立 に向けた介護	排泄の介助方法の基本を学び、利用者の自立に向けた排泄の介護技術演習を行う。	(9)－⑩
	⑪睡眠に関連したこころ とからだのしくみと自立 に向けた介護	睡眠に関する基礎的知識を理解する。 環境整備と用具活用等による質の高い睡眠の支援方法を学ぶ。	(9)－⑪
	⑫死にゆく人に関連した こころとからだのしくみ と終末期介護	終末期の身体的状況・心理状態を理解する。 緩和ケアと多職種との連携、家族への支援方法を、事例を通して検討、理解する。	(9)－⑫
	【ウ 生活支援技術演習（10～12時間）】		
	⑬介護過程の基礎的理 解	事例に基づき基本的情報の整理、アセスメント、介護計画（目標・内容）の立案、実施、評価、修正を実際に行い、流れを理解する。	(9)－⑬
	⑭総合生活支援技術演 習	複数の事例を用い、アセスメント、自立に向けた介護課程の展開方法を考え、技術習得度の確認も踏まえた介護技術演習を行う。	(9)－⑭
(10)振り返り (4時間)	①振り返り	研修を通して学んだことを振り返り、改めて介護と介護職を正しく認識できているか、グループワークにて要点をまとめ再確認する。	(10)－①
	②就業への備えと研修 修了後における継続 的な研修	働く現場における継続的学習について確認を行い、キャリアパスやOJT等の理解を深める。	(10)－②

※1 実施計画欄に、申請者が実施する研修内容を記載すること。

※2 実習を実施するにあたっては、本要綱「14 実習」の内容に留意すること。